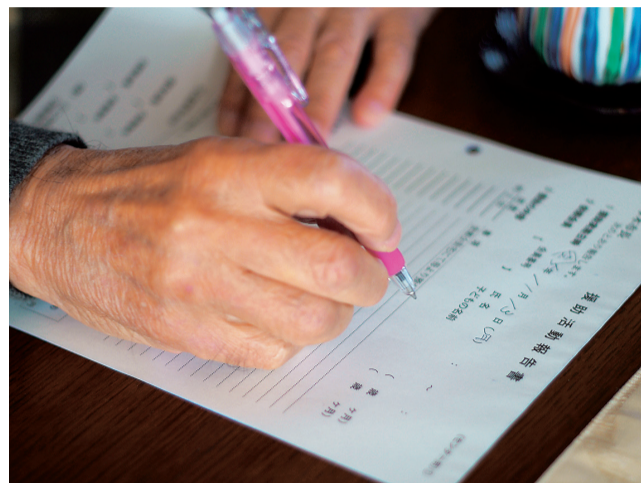




預かった子どもと遊ぶ秋田さん(左)。「男性にもできることはある」と話す



初回利用時には親子、ファミサポ職員と打ち合わせ



活動後に提出する報告書

みんなで子育て

特集 地域で子育て世帯を支える



夕飯の内容を依頼者と相談



お礼にもらった手紙



子育て支援センターに活動を報告



親子と触れ合う小池さん(右)

子どもから広がる輪

ほっとタイムサポーター
小池 美智代さん

「こんにちは、今日も児童館で楽しく遊んできたのかな。子どもたちに優しく声を掛けるよ。小池美智代さん(毛利台)は、手際よく夕飯の支度にとりかかります。小池さんは、6カ月以下の子どもがいる家庭を手伝う「ほっとタイムサポーター」。市内各地の家庭を訪れ、おむつ替えや料理、洗濯、掃除など、育児や家事のサポートをしています(下欄参照)。

子どもたちと接する喜び

ほっとタイムサポーターは、出産を終えて間もない世帯を支えるため2013年に市が始めた取り組みです。子育て支援センターが仲介役を担い、支援してほしい世帯とサポーターする地域の人をつないでいます。現在は51人のサポーターが登録。年間約160件の支援依頼に応じています。小池さんもその一人。制度が始まったときから登録し、活動を続けています。「こんなに長く子どもに関わる仕事をするとは思っていません」と笑う小池さん。サポーターを始める前、自身の育児が落ち着き、何か子どもと関わることをしてみたいと思っていました。児童館で働きながら、日々子どもたちと関わるうちに、楽しさを感じるようになっていきました。

縁を大切に

小池さんは長年サポーターとして活動する中で、多くの家庭と関わってきました。「最近では子育てをするお父さんも増えて沐浴やおむつ替えなども一緒にしてくれる」と話す小池さん。訪問先では家族との会話を楽しみながら活動しています。小池さんたちサポーターは、子育て支援センターで研修を受け、沐浴や子どもとの接し方を学んでいます。

長年活動続ける小池さんの周りには、たくさんつながりが生まれています。「道端で以前関わったお母さんに声を掛けてもらったり、支援が終わっても共通の趣味が分かり、付き合いが続いたりしている」と話す小池さん。子育て世帯を支える活動から生まれた縁を大切にしながら、今日もどこかの親子の元を訪ねています。

子育てをしていると、少しだけ助けってもらいたくなったり、話を聞いてほしくなったりする時が誰にでもあるはず。市では、子育て支援センターを中心に、地域の皆さんの力を借りて子育て世帯を支える仕組みをつくっています。特集では、子育て世帯と地域の関わり方を追いました。

子育て支援センター 2022

できることを続ける

ファミサポ・サポート・センター
提供会員 秋田 征男さん

「今日はよく来たね。トランプでもして遊ぼうか。どんなゲームを知っているかな。自宅で預かる子どもたちに優しいまなざしを向けるのは秋田征男さん(82・寿町)。「子どもたちは大切な存在。みんな孫のように見えるね。ファミサポ・サポート・センター(以下ファミサポ)の提供会員として、20年以上地域の子育て支援に携わっています。」

我が子のように

妻の美弥子さんと2人の娘を育ててきた秋田さん。「30年前に子どもたちがみんな巣立ち、寂しさがあつた。時間がきたら、地域の子どものお世話をしたいと考えていた」。20年前から市内で暮らし、市の広報紙でファミサポのことを知った秋田さんは、定年退職をきっかけに夫婦で講習を受

地域で支える

「昔は近所の子どもをみんな知っていた。もっと地域のつながりがあれば子育ても楽になるはず」と話す秋田さん。「支援の受け皿が増えてほしい。誰にでもできることはあるはず」と力を込めます。体が元気なうちは支援を続けていこうと切り切る秋田さん。夫婦で力を合わせ、笑顔で子どもたちを迎えています。

子どもの送り迎えなどを援助
ファミリー・サポート・センター提供会員

保育所への送迎や、一時的な預かりなどを提供する提供会員を募集しています。

《対象》市内在住で子どもの一時的な預かりや、保育施設への送迎などができ、講習会を受講できる方。

子育て支援センターや公民館にある申込書と写真2枚を、直接ファミサポ事務局 ☎225-2933へ。2024年2月の講習会を受けて活動開始。

仕事・費用・利用方法などの詳細はこちら

☎子育て支援センター ☎225-2922

互いに理解し 関わるのが大事
湘北短期大学保育学科教授 高木 友子さん(54)

子どもは、さまざまな価値観を持った人たちと触れ合うことで刺激を受けて成長します。しかし、個人の考えを重視する社会情勢やコロナの流行により、人との関わりが減少しています。人と接する機会が減ると、子どもの発達に数カ月の遅れが生じるなどの研究データもあります。家族だけでは、子どもが外部から受ける刺激はパターン化されてしまうので、自治会や子ども会、近所の方など、身近な人から関わりの輪を広げてみてはいかがでしょうか。

子育てを手伝う方も、価値観の多様化を理解し、思いやりの気持ちを持って接すると良いのではないのでしょうか。

☎保育課 ☎225-2231

地域の仲間と子育てで交流
コミュニティ保育

地域で親子のグループを作り、園舎や公園などで交流する「コミュニティ保育」が2団体あります。

自主保育グループのびのび園 たんぽぽコミュニティ保育

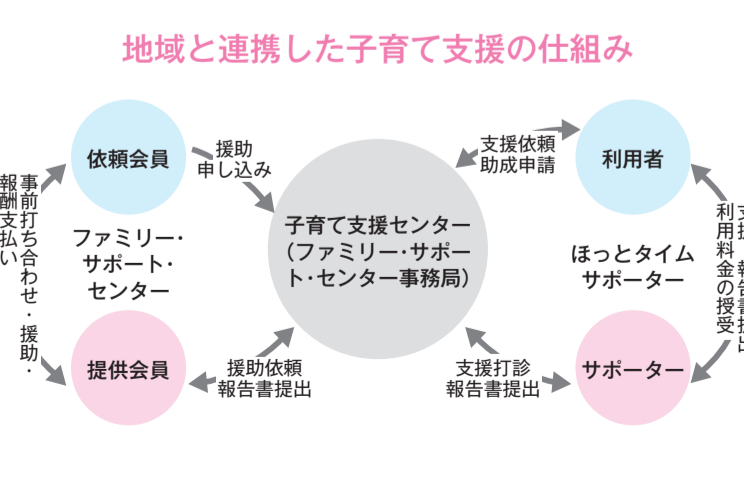
入園を希望する方や運営協力に興味がある方は、各園HPから問い合わせてください。

☎保育課 ☎225-2231

みんなで支え 助け合える

のびのび園会員 鈴木 涼夏さん(32・吾妻町)

5年ほど前から子どもを入園させています。以前は2人の年子を家だけで育てるのが大変でしたが他の保護者の方が一緒に支えてくれるので、子育てが楽しくなりました。



子育てサイトをリニューアル

市の子育てサービスを効果的に伝えるため、デザインやレイアウトを変更しました。

■公開日 12月1日

■リニューアルのポイント

- ・視認性を重視したレイアウト
- ・「妊活」カテゴリを新設
- ・年齢別の検索でコンテンツを見つけやすく

☎こども育成課 ☎225-2262

妊産婦を支援しませんか
ほっとタイムサポーターを募集

妊娠中や出産後の方の自宅を訪問し、育児や家事などの手伝いをするサポーターを募集しています。

《対象》①保育士②ホームヘルパーで養成講習3級以上を修了③介護福祉士④保健師または看護師⑤市子育てアドバイザーのいずれかに該当する方

☎子育て支援センターや市HPにある申請書を直接、子育て支援センターへ。

☎子育て支援センター ☎225-2922